

**「第11回文化庁メディア芸術祭」  
来場動員数 20,000人を突破！  
体験型のインタラクティブ作品に注目が集まる**

今年で11回目となり、国立新美術館で2月6日（水）より開催している文化庁メディア芸術祭が1週目で、来場者数20,000人を超えました。

中でも、\*1アート部門のインタラクティブ作品は、「作品に触れることで、何かを感じるのが面白い」といった声や「アートの裏にある最新技術がすごい」などメディア芸術祭ならではの作品として人気が集まっております。同祭は17日（日）まで開催しています。（入場無料）

会場ではアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ部門に応募がありました43の国と地域の作品2091点より選ばれた約160点の優秀作品を見て、触れて楽しめる展示となっております。また、アニメーション部門大賞の「河童のクゥと夏休み」などのアニメーション作品や映像作品は、会場内のメインシアターの他、3階にある講堂でも上映を行います。

その他、受賞者シンポジウム（エンターテインメント部門（2/16）、アニメーション部門（2/17））や「アートとテクノロジーの融合—何を生み出したか？何を生み出すのか？—」（2/14）、「なぜ、日本のマンガは世界を征したのか？」（2/15）などのシンポジウムも開催します。

（詳細は、<http://plaza.bunka.go.jp/festival/2007/outline/symposium/index.php>）

<講堂のプログラムは、当日10時より3階講堂にて整理券を配布。先着順、無料>

\*1 アート部門の優秀賞「Se Mi Sei Vicino（セミセイ ヴィチーノ）」イタリアのソニア チッラリ氏による、人の体をインターフェイスに人と人が近づくことによる「場」の反応を空間表現で可視化した作品や同賞「ビュー・ビュー・View」電気通信大の有志グループによる、風のセンサーと風のディスプレイによりテレビ電話に、新たな息使いという感覚が備わったかのような作品。同じく同賞、「Camera Lucida（カメラ ルシーダ）」薄暗い部屋の中で、目が慣れてくると液体の中で踊る微細な泡の生物的な動きが見えてくる。見えないはずの音波を視覚化した、ベラルーシ生まれのドミニク氏とロシア生まれのゲルフアンド氏の2人による作品など。

**【第11回文化庁メディア芸術祭 開催概要】**

会期 2008年2月6日（水）- 2月17日（日）10:00 - 18:00

会場 国立新美術館（入場無料） [地下鉄「乃木坂」直結、地下鉄「六本木」徒歩4～6分]

URL <http://plaza.bunka.go.jp/>

主催 文化庁メディア芸術祭実行委員会 [文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会]

問合せ CG-ARTS 協会「文化庁メディア芸術祭事務局」

フリーダイヤル 0120-454536 / E-mail [contest@plaza.bunka.go.jp](mailto:contest@plaza.bunka.go.jp)

**この件に関する問合せ先**

CG-ARTS 協会 広報 篠原・千葉

TEL 03-3535-3501

広報分室 友野・安藤（ブランデックス・ジャパン）

TEL 03-3564-2361

URL:<http://plaza.bunka.go.jp/>

E-mail [info@cgarts.or.jp](mailto:info@cgarts.or.jp)